

岩日タイムズ

発行者
岩瀬日本大学
高等学校
ソーシャルメディア部
飯山 粹衣

郷音き合う音 楽しむもう

5月29・30日オンライン開催

日比谷音楽祭・亀田誠治さんに聞く

5月16日、日比谷音楽祭実行委員長であり、音楽プロデューサーの亀田誠治さんにオンラインで取材を行った。コロナ禍によりオンライン開催となったイベントについて、また、音楽の持つ可能性について質問した。

日比谷音楽祭では「フリーでボーダーレス」をテーマに掲げ、親子3世代が楽しめるように幅広いにしめるようにしている。今回



インタビューに答える亀田さん

世代の歌手を集めたり、耳が聞こえなくても楽しめるように手話の歌を取り入れたりしている。今回



のオンライン開催にあたってネット視聴の設定ができない場合は、運営スタッフが支援する予定だという。また、第1回目の開催である2019年には、中華圏や米国からも多くの人々が訪れたそうだ。世代を超え、国籍を超えて楽しむことができるこのイベントは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の一つである「人や国の不平等をなくそう」と深くつながっていると考え、音楽とSDGsの関係性について亀田さんに尋ねた。「互いに響き合うことで良い方向へ向かっていく音楽と17の目標全てが関連し合っている。音楽はSDGsそのもの」「もし疲れた時には、一度立ち止まって音楽を聴いてほしい」。

編集後記

田さんが作る日比谷音楽祭に参加してみてはどうだろうか。私たちは質問にも優しい笑顔で答えてくださった亀田さん。今回のイベントを本の図書館ならぬ「音楽の図書館」にしたいと語る。皆さんにとって図書館とはどんな存在だろうか。私にとって図書館は、心が落ち着く場所であり大好きな場所でもある。亀田さんにとって図書館とは、多くの人が自然と集まっていく場所であり、心と心をつなぐ場所だと考えるそう。亀田さんの人となりを体現する、みんなに優しく誰もが楽しめるような音楽祭になることだろう。今後の活動にも注目していきたい。(飯山)

音楽の新しい循環をみんなで作る

フリーでボーダーレスな音楽祭は、日本の野外コンサートに歴史をつくってきた音楽の聖地「野音」を擁する日比谷公園で、素晴らしい音楽を体験できる、誰もが参加できる開かれた音楽イベントです。入場や参加にお金はかかりませんが親子孫3世代、誰もが気持ちのよい空間と、トップアーティストのライブやさまざまな質の高い音楽体験を、無料で楽しむことができます。私たちの暮らしている自然に根を張り、日々を豊かにする。そんな「音楽の新しい循環」をつくっていくきっかけとなることを目指しています(日比谷音楽祭ホームページより抜粋)

